

阪神水道企業団の概要

阪神地域は、水道水源となる大きな河川がなく慢性的な水不足に悩まされていました。そこで、安定した給水を確保するため、昭和11年7月、阪神水道企業団が設立され、遠く琵琶湖・淀川水系を水源とする水道用水供給事業にとりかかり、昭和17年に給水を開始しました。

以来、発展を続ける構成市の水需要に対処するため拡張工事を実施し、現在は1日最大112万8千m³の供給能力を有し、その全量がオゾンと活性炭処理を取り入れた高度浄水処理水となっています。



みなさまに愛される浄水場をめざして

阪神水道企業団の総力を結集した21世紀の浄水場

尼崎浄水場は、昭和17年から給水を開始していましたが、浄水施設の旧式化がすすみ、また、阪神淡路大震災による大きな被害を受けました。そのため、平成9年10月より全面更新を行い、平成13年4月から新しい浄水場として給水を一部開始し、平成22年7月からは、全量通水しています。尼崎浄水場は4つのコンセプトにより建設され、効率的で新しい浄水技術を導入するとともに、より安全で安定した水道水の供給を確保し、環境面にも考慮して市民の皆様にも愛される浄水場を目指しています。

安心

より安全でおいしい水づくり

- 水質管理の強化
- 高度浄水処理の導入

環境

地球にやさしい浄水場

- 脱水ケーキの有効利用
- 天然ガスコージェネレーションシステムの導入



安全

地震に強い浄水場

- 施設の耐震性強化
- 施設の2系統化
- バックアップ電源の強化

発想

新しい発想と新技術

- 酸素原料オゾン処理システム
- ろ過速度の高速化
- 応急給水施設の設置



見学者ゾーン



いつでも安心給水栓



ピュアハウス

敷地面積	66,434m ²
施設能力	373,000m ³ /日